

## 西村閑也教授略歴と業績目録

雑誌名	経営志林
巻	32
号	4
ページ	223-227
発行年	1996-01-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00016151">http://hdl.handle.net/10114/00016151</a>

## 西村閑也教授略歴と主要業績目録

### <略 歴>

- 1929年3月 東京に生まれる。  
1947年3月 関東学院中学部（旧制）第4学年修了  
1949年3月 都立高等学校（旧制）第2学年修了  
1953年3月 東京大学経済学部経済学科卒業  
1955年3月 東京大学大学院社会科学研究所修士課程修了（経済学修士）  
1955年4月 法政大学経済学部助手  
1955年度 青山学院大学第二経済学部非常勤講師（1959年度まで）  
1958年3月 法政大学大学院社会科学研究所博士課程単位修得退学  
1958年4月 法政大学経済学部専任講師  
1960年3月 英国文化振興会（British Council）奨学金留学生試験合格  
1960年10月 英国ノッティンガム大学産業経済学科留学（1961年9月まで）  
1961年4月 法政大学経営学部助教授  
1967年4月 法政大学経営学部教授  
1969年9月 ロンドン大学（ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス）大学院博士課程修了（Ph.D.）  
1970年度 東京都立大学経済学部非常勤講師  
1975年4月 法政大学経営学部長（1976年3月まで）  
1976年4月 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス客員研究員（1977年3月まで）  
1977年度 東京女子大学文学部社会学科非常勤講師（1993年度まで〔隔年〕）  
1977年度 金沢大学経済学部非常勤講師（夏期集中講義）  
1982年度 東京大学経済学部非常勤講師  
1991年3月 パリ第一大学客員教授  
1995年6月 ケンブリッジ大学クレア・ホール客員フェロー選任（任期：1996年10月～1997年6月）

### <学会活動等>

- 1983年度 日本学術振興会流動研究員等審査会委員  
1985年6月～ 信用理論研究会理事  
1986年4月～1994年3月 金融学会常任理事  
1988年4月～1992年3月 学術会議研究連絡委員（財政学・金融論）  
1991年2月～1993年1月 学術審議会専門委員  
1993年1月～1994年1月 金融学会『金融経済研究』編集委員長  
1994年4月～ *Financial History Review* (Cambridge U.P.) Editorial Adviser

## ＜主要業績＞

### I 著 書

- (1) *The Decline of Inland Bills of Exchange in the London Money Market, 1855-1913*, Cambridge University Press, 1971.
- (2) 『国際金本位制とロンドン金融市場』法政大学出版局, 1980年

### II 共著書・共編著書

- (1) 『国際金融論入門』（小野朝男と共編）有斐閣 1975年（第1版）1989年（第3版）
- (2) 『戦間期の通貨と金融』（玉野井昌夫, 長幸男と共編）有斐閣, 1982年
- (3) 『現代貨幣信用論』（深町郁彌・小林襄治・坂本正と共著）名古屋大字出版会, 1991年
- (4) 『比較金融史研究：英・米・独・仏の通貨金融構造 1870-1914年』（酒井一夫と共編著）ミネルヴァ書房, 1992年
- (5) 『現代世界の金融政策』（林直嗣と共編著）日本経済評論社, 1993年
- (6) *Pacific Banking, 1859-1959: East Meets West*, (coedited with O. Checkland and N. Tamaki) Macmillan, 1994

### III 訳 書（〔 〕内は原題）

- (1) O. ホブソン『国際金融市場入門』日本評論社, 1964年  
〔Oscar Hobson, *How the City Works*, 1962〕
- (2) T. バロー『英国の金融機構』（藤沢正也と共訳）法政大学出版局, 1964年  
〔T. Balogh, *Studies in Financial Organization*, 1950〕
- (3) The Bank of Japan, *Money and Banking in Japan*, Macmillan, 1973  
〔日本銀行『わが国の金融制度』, 1969年〕
- (4) S. ド・ブリュノフ他『マルクス金融論』（河合正修訳の監修）日本経済評論社, 1979年  
〔S. de Brunhoff, *La Monnaie chez Marx*, 1973〕
- (5) 『ウィルソン委員会報告』（共訳及び監修）日本証券経済研究所, 1982年  
〔Report and Appendices of the Committee to review the Functioning of Financial Institutions, HMSO, 1980〕
- (6) 『マクミラン委員会報告書・証言録抜粋』（加藤三郎と共訳）日本経済評論社, 1985年  
〔Report and Minutes of Evidence taken before the Committee on Finance and Industry, 1931〕
- (7) P. L. コトレル『イギリスの海外投資』早稲田大学出版部, 1992年  
〔P. L. Cottrell, *British Overseas Investment in the Nineteenth Century*, 1975〕
- (8) J. M. ケインズ『ケインズ全集 第19巻』東洋経済新報社, 1997年刊行予定  
〔J. M. Keynes, *The Collected Writings, Vol. 19 Activities 1922-29*, 1981〕

### IV 論 文・研究ノート

〔法政大学経営学会『経営志林』所収〕

- (1) 「一九世紀中葉の英国における手形振出額推定」第3巻第1号, 1966年4月
- (2) 「英国における1861-1913年度の手形振出額の推定」第4巻第3号, 1967年10月
- (3) 「英国の金本位制と景気変動, 1821年-1913年」第7巻第2号, 1970年7月 I-(2)に再録
- (4) 「イングランド・ウェイルズ・マン島・チャネル諸島における各銀行別店舗数の推移, 1855年-1913年」第8巻第1号, 1971年4月

- (5) 「国際金本位制1870-1913年についての試論」第8巻第4号, 1972年1月 I-(2) に再録
- (6) 「イギリスの新金融調節方式とその背景」第9巻第2号, 1972年6月
- (7) 「国際金本位制下の物価変動と国際収支調整, 1870-1913」第9巻第4号, 1973年3月 I-(2) に再録
- (8) 「イギリスにおける通貨ストックの増加, 1870-1913年」第10巻第1号, 1973年4月
- (9) 「イギリスにおける金貨流通量の推定, 1880-1913年」第10巻第2号, 1973年10月
- (10) 「第一次大戦前における英国金貨流通量の推定について」第13巻第1号, 1976年4月
- (11) 「イギリス(連合王国)における銀行預金量の推定, 1870-1913年(1)(2)(3)(4)」第14巻第1号, 第2号, 第3号, 第4号, 1977年4月, 7月, 10月, 1978年1月 I-(2) に再録
- (12) 「イギリスにおける通貨供給と国民所得, 1870-1913年」第15巻第2号, 1978年7月 I-(2) に再録
- (13) 「産業的流通と金融的流通」第17巻第1号, 1980年3月
- (14) 「不換ドルの国際通貨としての流通根拠」第17巻第2号, 1980年7月
- (15) 「イギリスのインフレーション」第17巻第4号, 1981年1月
- (16) 「第一次大戦前のドイツ・オーストリア系銀行ロンドン支店の業務について」第18巻第1号, 1981年4月
- (17) 「国際金本位制とロンドン金融市場, 1870-1913」第18巻第3号, 1981年10月
- (18) 「基軸通貨としての英ポンド, 1870-1913」第19巻第4号, 1983年1月
- (19) 「第一次大戦前の銀行集中運動-イギリスとフランスの比較-」第24巻第3号, 1987年10月
- (20) 「第一次大戦前フランスにおける地銀経営の実態(1)(2)」第25巻第4号, 第26巻第1号, 1989年1月, 4月
- (21) 「(続) 第一次大戦前フランスにおける地銀経営の実態(1)(2)」第26巻第4号, 第27巻第2号, 1990年1月, 7月
- (22) 「国際銀行業史(1870-1914年) 研究序説(1)(2)」第27巻第3号, 第4号, 1990年10月, 1991年1月
- (23) 「第一次大戦前フランスの経済成長と貨幣供給」第28巻第4号, 1992年1月
- (24) 「第一次大戦前フランスの地方銀行と中央銀行(1)(2)」第29巻第2号, 第3号, 1992年7月, 10月
- (25) 「香港上海銀行の行内資金循環, 1913年」第30巻第1号, 1993年4月
- (26) 「フランスにおける銀行預金量の推定, 1890-1913年」第31巻第1号, 1994年4月
- (27) 「中国における国際銀行業, 1890-1913年」第32巻第4号, 1996年1月

[ 法政大学経済学会『経済志林』所収 ]

- (28) 「ロンドン手形割引市場の構造変化について」第31巻第1号, 1963年1月
- (29) 「国際収支と地域間収支」第41巻第3・4号, 1973年10月

[ 金融経済研究所『金融経済』所収 ]

- (29) 「1810年代のイギリスのインフレーションについて-地金論争の理解の為に-」第36号, 1956年2月
- (30) 「イギリスの銀行合同運動について(1)(2)」第55号, 第56号, 1959年4月, 6月
- (31) 「イギリスの銀行合同運動について-再論-(1)(2)(3)」第74号, 第75号, 第78号, 1962年6月, 8月, 1963年2月 I-(2) に再録
- (32) 「ロンドン割引市場における手形の供給と利子率 1855-1913年(1)(2)(3)(4)」第118号, 第119号, 第120号, 第121号, 1969年10月, 12月, 1970年2月, 4月 I-(2) に再録
- (33) 「預金通貨増減と現金通貨増減」第152号, 1975年6月

(34) 「第一次大戦前英国の金貨流通とその実態」第217号, 1986年4月

[ 日本証券経済研究所『証券研究』所収 ]

(35) 「ヨーロッパ経済通貨統合と資本市場」第45巻, 1975年7月

(36) 「イギリスの経済成長と産業投資」第58巻, 1979年7月

(37) 「英国経済の生産性と経済成長」第70巻, 1983年10月

(38) 「サッチャー政権下の英国におけるマネタリー・コントロール」第79巻, 1986年9月

(39) 「サッチャー政権下の英国経済」第91巻, 1990年2月

(40) 「サッチャー以後の英国金融政策」第109巻, 1994年7月

[ その他の定期刊行物・単行本等に所収 ]

(41) 'The Mechanism of the Supply of Money in the United Kingdom, 1873-1913' in P.L. Cottrell and D.E. Moggridge (eds.), *Money and Power*, Macmillan, 1988

(42) 'Bill of Exchange', in P. Newman, M. Milgate and J. Eatwell (eds.), *The New Palgrave Dictionary of Money & Finance*, Macmillan, 1992

(43) 'The Flow of Funds within the Hongkong and Shanghai Banking Corporation in 1913', in II - (6)

(44) 'The French provincial banks, the Banque de France, and bill finance, 1890-1913', in *The Economic History Review* 2nd Ser., Vol. 48 No. 3, Aug. 1995

(45) 'International Banking in China, 1890-1913', in A. Teichova, G. Kurgan van Hentenryk and D. Ziegler (eds.), *Banking, Trade and Industry in Europe*, Cambridge University Press, 1996 (forthcoming)

(46) 「信用・貨幣論－戦後の金融論争の一側面－」(渡辺左平編『論争・現代の経済理論』日本評論新社, 1962年)

(47) 「十九世紀中葉の一英国地銀の実態－バーミンガム・バンキング・カンパニーの支払停止について－」(大内兵衛他編『金融論研究』法政大学出版局, 1964年)

(48) 「国際金融市場」(川口弘・川合一郎編『金融論講座4 国際金融と国際通貨機構』有斐閣, 1965年)

(49) 「ロンドン金融市場の国際化と短期金利体系の変化－1862-1913年」(渡辺左平編『インフレーション理論の基礎』日本評論社, 1970年)

(50) 「金本位制」(II - (1) 所収, I - (2) に再録)

(51) 「第一次大戦前にいたるイギリスの金融制度と金融政策」(大内力編『現代金融』東京大学出版会, 1976年)

(52) 「金融資産の累積とインフレーション」(川合一郎編『現代信用論(上)』有斐閣, 1978年)

(53) 「金価値論争」(『現代マルクス＝レーニン主義辞典』社会思想社, 1980年) I - (2) に再録

(54) 「国際金融市場における日本の金融的地位」(『講座 今日の日本文資本主義6 日本資本主義と金融・証券』大月書店, 1982年)

(55) 「イギリスの金本位制復帰と短資移動」(II - (2) 所収)

(56) 「戦間期アメリカの通貨と金融」(II - (2) 所収)

(57) 「国際金本位制の成立・展開・崩壊」(社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣, 1984年)

(58) 「国際決済関係の変転」(揚井克己・石崎昭彦編『現代国際経済』東京大学出版会, 1984年)

(59) 「シティの歴史と現状」(大阪市立大学経済研究所編『世界の大都市 I ロンドン』東京大学出版会, 1984年)

- (60) 「利子率とその変動」(浜野俊一郎・深町郁彌編『利子・信用』有斐閣, 1985年)
- (61) 「通貨・金融構造の比較—イギリス, フランス, ドイツ(1880—1913年)」(小野朝男編著『金・外国為替・国際金融』ダイヤモンド社, 1986年)
- (62) 「金本位制について」(金融学会編『金融学会報告』第64号, 1989年7月)
- (63) 「貨幣・信用理論の歴史」(Ⅱ—(3)所収)
- (64) 「現代の貨幣と信用」(Ⅱ—(3)所収)
- (65) 「第一次大戦前英国の通貨と金融」(Ⅱ—(4)所収)
- (66) 「第一次大戦前フランスの通貨と金融」(Ⅱ—(4)所収)
- (67) 「地方銀行の発展とその実態」(Ⅱ—(4)所収)
- (68) 「比較金融史の方法」(Ⅱ—(4)所収)
- (69) 「サッチャーの金融政策」(Ⅱ—(5)所収)
- (70) 「東アジア国際銀行史」(金融学会編『金融経済研究』第5号, 1993年7月)
- (71) 「1980年代の英国金融政策—マネタリー・ベース・コントロール論争以降—」(飯田裕康・川波洋一編『現代信用論の基本課題』有斐閣, 1994年)
- (72) 「マーチャント・バンカー」(川北稔編『歴史学事典 第1巻: 交換と消費』弘文堂, 1994年)
- (73) 「シティ」(同上)
- (74) 「金本位制について」(金融構造研究会『金融構造研究』第17号, 1995年6月)

## V 学会報告

### [ 金融学会 ]

- (1) 「内国為替手形の消滅とロンドン割引市場」1963年5月 於東京大学
- (2) 「イギリスにおける銀行預金量の推定, 1870—1913年」1978年5月 於学習院大学
- (3) 「金融的流通と産業的流通—1907年の英国についての推定—」1979年10月 於金沢大学
- (4) 「第一次大戦前フランス銀行の産業金融」1991年10月 於滋賀大学
- (5) 「第一次大戦前香港上海銀行の行内資金循環」1993年11月 於長崎大学

### [ 信用理論研究学会 (信用理論研究会) ]

- (6) 「戦前のポンドと戦後のドル」1971年11月 於福岡大学
- (7) 「金本位制の機能とその展開」1972年10月 於札幌大学
- (8) 「国際金本位制とロンドン金融市場」1981年11月 於西南学院大学
- (9) 「国際金本位制下のイギリス, フランス, ドイツ」1987年11月 於名城大学
- (10) 「国際銀行の歴史」1990年10月 於広島大学

### [ その他 ]

- (11) 'The Flow of Funds within the Hongkong and Shanghai Banking Corporation in 1913', 11 th International Economic History Congress Section C 48 in University of Bocconi, Milan, September 1994
- (12) 'The History of International Banking in China, 1890—1914', 18 th International Congress of Historical Science in Palais des Congres, Montreal, August 1995

(書評, 解説, 随筆の類は省略した)